

---

# 美しいもの

遠美 見

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

美しいもの

### 【コード】

N8650H

### 【作者名】

遠美 見

### 【あらすじ】

見えるものと見えないもの・・・人は押しなべて前者しか見ない。

「美しいものは、見えないから美しいんだよ」

と君は言った。

「見えないのに、どうして美しいと分かるんだ」

と僕は言った。

「さあね・・・でもそうなんだよ」

君はそういつて笑った。

空が高く感じる季節のことだった。

僕と君は、ひとつ年下の君が生まれたときから友達で、ほとんど兄弟のように育った。

互いの親よりも互いのことを知っていた。

見えることも、見えないことも、なにもかも……………。

君は、生まれたときから、とても美しくくて、

君を見た人はみんな、

「美しい子だ」

「可愛い子だ」

と、君を褒めた。

しかし、やがて彼らは、見た目と違う行動をする君を認めず、自分たちが作り上げた「美しいもの」にふさわしい振る舞いだけを君に強要するようになった。

やがて君は、僕にしか心を許さなくなり、僕とだけ話し、僕にだけ笑うようになった。

「見えるものは、嫌い。優しくないから」

君はよくそう言って笑う。僕を見て、笑う。

すると、まわりで見ている人はこう言うんだ。

———また独り言を言っているよ。———また一人で笑っているよ。

ああ、いやな目だ……。吐き気がするような、いやらしい目つきが君に向けられている。

誰も僕を見ない。あの人たちは、僕を見ることはできないのだ。

見えるものしか信じない人たち・・・そんな人たちが君を壊した。

僕が死んで、それをわかってとせずに僕に話しかける君を、狂っている、と言った。

君は狂ってなんかいない。

だって見えないもののほうが美しいとわかっているのだから。

見える人より、見えない僕に、笑いかけてくれるのだから。

ごめんね・・・・・・・・。。。

君を壊したのは僕。

君を残して見えなくなった僕・・・・・・・・。。。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8650h/>

---

美しいもの

2011年1月28日15時40分発行